

近江の茶所を訪ねる。



「近江の茶」についてのお問い合わせ先
 一般社団法人 滋賀県茶業会議所
 TEL / 0748-63-6960 FAX / 0748-63-5204
 E-mail / shigacha@mx.bw.dream.jp



近江の茶

むかし、むかし、
 最澄が、遠く唐の国から、
 持ち帰った、
 一粒の種を、大事に、大事に、
 受け継ぎ、育てた「近江の茶」。



日本茶、最初の一粒はここに播かれた
始まりの茶、「近江の茶」。

「近江の茶」の起源をたどれば、平安初期の805年、伝教大師最澄が唐の国よりチャの種子を持ち帰り、比叡山麓に播いたことが始まりとされています。

比叡山の麓にある日吉大社のほとりに、その時のものと伝わる茶園があり、日本茶業発祥の地ともいわれています。

まさに、日本の茶の歴史は、ここ近江の地からはじまりました。

それから1200年の歳月を経て、磨き抜かれ、脈々と受け継がれてきた匠の技が、近江の銘茶を今に伝えていきます。



出合い難し、至福のいづく。

寒さが鍛えた、

熟成して優る味わい。

「近江の茶」は比類なき香りのよさが持ち味で、古くから茶人に広く愛されてきました。
県南部の丘陵地を中心に昼夜の寒暖差が大きい気候で育てられるため、しっかりと葉に養分が蓄えられ、濃密な香りと深い滋味を持つ上質な茶ができます。そのため、熟成するほど旨味が増す、秋優りのお茶として知られています。

朝宮、土山、政所。

それぞれの茶所で、伝統の技と工夫で手間暇かけて育てられる「近江の茶」は、生産量も少なく、希少価値の高い、まさに出合い難し至福の一服。

茶のぬくもり、茶の香り、茶の旨味。

急須を使ってゆつくりと煎じてお楽しみいただきたい銘茶です。



人々の丹精が磨いた
深い味わい。

土山は、滋賀県最大の生産量を誇る、
近江随一の茶所です。

江戸時代には、東海道の宿場町として
栄え、当時は街道名物「あけぼの茶」
として広く知られていました。これが土
山茶の礎となっています。

野洲川沿いのなだらかな丘陵地に茶畑
がひろがり、長い日照時間と清らかな
水に恵まれて育つ土山茶は、まったりと
した深い味わいが持ち味です。

茶葉の摘み取り前に覆いをかぶせて、
旨味を増し、渋味を抑える「かぶせ茶」
の栽培が盛んで、全国や関西の茶の品
評会で何度も農林水産大臣賞を受賞
しています。



土山

滋賀県甲賀市土山町周辺

電車でお越しの場合 / JR 草津線 貴生川駅からタクシーで約30分

お車でお越しの場合 / 新名神高速道路 土山ICから約10分



天空の茶園、
「朝宮」。

寒暖差の大きい山間地で、
じっくり育つ
香り高い銘茶。

標高450mから550m。
昼夜の寒暖差が大きく、美しい自然に
恵まれたこの土地は、まさに茶の栽培
に適した地で、立ち込める霧が、香り
高い良質なお茶を育てます。

香りを生かした若蒸しが主流で、茶葉
がしっかりとしており、本来の煎茶の色で
ある山吹色の伝統を守り続けていま
す。

山吹色の煎茶から立ち上がる香気は、
まさに最高峰と呼ぶにふさわしく、日
本五大銘茶のひとつに数えられる逸品
です。



朝宮

滋賀県甲賀市信楽町周辺

電車でお越しの場合 / 信楽高原鉄道 信楽駅からタクシーで約20分

お車でお越しの場合 / 新名神高速道路 信楽ICから約30分



1. お湯を計る

湯を湯呑みに8分目まで入れ、50～60度まで冷まします。(湯の温度は30秒ごとに約5度下がります。)



2. 茶葉を計る

1人分の茶葉の量を3～5gとして急須に入れます。



3. 湯を注ぐ

冷ました湯を急須に注ぎます。



4. 茶葉を蒸らす

1分半ほど蒸らし、茶葉が7～8割ほど開いたら飲みごろです。



5. 回し注ぎ

茶の濃さと量が均一になるように、1→2→3→4→4→3→2→1という順で何度かに分けて、回し入れていきましょう。



6. 注ぎきる

最もうまみが凝縮する最後の一滴まで注ぎきってください。

「近江の茶」を愉しむ。

「近江の茶」の持ち味は、口いっぱい広がる爽やかな香気です。低温で丁寧に淹れた「近江の茶」を、ゆっくり愉しんでください。

【二煎目の淹れ方】

湯の温度は一煎目よりもやや高めにし、急須に湯を注いだら、すぐに湯呑みに注ぎましょう。一煎目とはまた違った味を愉しめます。

【氷出し茶】



茶葉の甘味が際立つ究極の淹れ方こそ、「氷出し茶」です。繊細な茶葉は低温であるほど苦味や渋味が抑えられ、甘味が前面に押し出されます。

淹れ方は簡単、氷を急須に敷き詰めて、1人分3～5gの茶葉を人数分入れておくだけです。常温で氷が溶けきったら完成です。湯で淹れた時とは違う、フレッシュな甘味を味わってください。



幻の銘茶、

「政所」。

鈴鹿山系の麓、霧深い山里に古来から脈々と育つ。

愛知川がもたらす豊かな水と霧に恵まれ、室町時代から栽培が始まったといわれています。

「宇治は茶所、茶は政所」と謳われ、全国的にも高級茶として知られていますが、現在ではその生産量はきわめて少なく、非常に希少価値の高い茶です。

幼少の石田三成が当時長浜城主であった豊臣秀吉に献上し、召し抱えられるきっかけとなった「三献の茶」は、政所茶と言われており、生涯にわたって秀吉に愛飲されたと伝えられています。

樹齢300年の茶の古木がたずみ、在来種が、自然のままの樹形で育つ茶畑は、一見の価値のある風景です。



政所

滋賀県東近江市政所町周辺

電車でお越しの場合 / 近江鉄道本線 八日市駅からタクシーで約50分

お車でお越しの場合 / 名神高速道路 八日市ICから約40分